

観察記録ノート

長野県飯田市での ウスイロコノマチョウの採集記録

林 昌之

長野県におけるウスイロコノマチョウ *Melanitis leda* (Linnaeus, 1758) の記録は、井原 (2005) によってまとめられている。それによると、1959年の山形村での記録をはじめとして、伊那谷南部や木曾谷を中心に22市町村28ヶ所で記録があり、その後、井原 (2008) によって2例の記録が追加報告されている。このようなことから、本種は県内では南部を中心に記録がみられるが、偶産的であり発見例は多くない。

筆者は、2010年に飯田市内でウスイロコノマチョウを採集したので報告する。

1 ex. (夏型), 16. IX. 2010, 飯田市龍江安戸 筆者



ウスイロコノマチョウ上：表面 下：裏面

採集・保管 (図1).

この個体は、雨天のため土手に生じた亀裂にシートを掛けに行ったさい、土手の草むらから飛び出し、近くのクルミの大木の幹にとまったものである。網を取りに行き、クロコノマチョウと思い込み採集したところ本種であった。

引用文献

井原道夫, 2005, 長野県におけるウスイロコノマチョウ. まつむし, 94, 34-35.

井原道夫, 2008, 長野県南部におけるウスイロコノマチョウの追加記録. まつむし, 97, 41.

(はやし まさゆき/長野県飯田市龍江7889)

長野県高森町での ウスイロコノマチョウの採集記録

四方圭一郎・松島竜平

著者の一人松島は、高森町でウスイロコノマチョウを採集したので、記録を報告しておく。

ウスイロコノマチョウは県下での記録は少なく、定着はしていないと思われる。それらの記録は (井原, 2005・2008) にまとめられている。

ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda* (Linnaeus, 1758)

1 ex., 下伊那郡高森町山吹北林, 3. Oct. 2010, 松島竜平採集, 飯田市美術博物館保管。

17:00すぎに、果樹園で発見し採集した。

ウスイロコノマチョウおよびクロコノマチョウと一緒に採集した松島稜之君, また四方まで届けていただいた飯田市美術博物館顧問の松島信幸氏にお礼を申し上げる。



ウスイロコノマチョウ

引用文献

井原道夫, 2005, 長野県におけるウスイロコノマチョウ. まつむし, 94, 34-35.

井原道夫, 2008, 長野県南部におけるウスイロコノマチョウの追加記録. まつむし, 97, 41.

(しかた けいいちろう/飯田市美術博物館)

(まつしま りゅうへい/
長野県下伊那郡高森町山吹679-1 (中学生))

天竜川支流遠山川における ハマスズの確認記録

四方圭一郎

ハマスズはその名の通り砂浜など海浜域を生息地とする小型のコオロギであるが、河川沿いに内陸部へも分布を広げ、天竜川や遠山川でもすでに発見され報告されている(小林, 1997・南信濃村教育委員会, 1998・四方, 2000)。

河川では河道内の砂地など裸地環境に依存しているが、このような環境は不安定で、特に近年ではダムによる土砂移動の減少や、洪水頻度の減少などによって、衰退傾向にあると思われる。また、かつては河川沿いに海浜部とつながっていたであろうこのような裸地環境は、途中にいくつもあるダムの影響で、完全に分断化され内陸の孤立産地となってしまっている。

このようなことから、河川的环境変化をモニタリングする上でも、ハマスズのような生物の生息状況を丹念に記録することは意味があると思ひ、既知の生息地ではあるが記録として報告する。

1♂3♀, 23. Oct. 2010, 長野県飯田市南信濃小道木遠山川河川敷. 四方圭一郎確認, 撮影.

小道木橋下流側の左岸側で確認した。この河川敷にも、フジウツギなどの植物が繁茂し、河川内の安定が続けば、ハマスズの生息環境は悪化していくと考えられた。

このような不安定な環境に依存する種においては、既知産地であっても継続した観察と報告が重要になってくると考えている。今後、多くの報告が蓄積していくことを期待したい。



ハマスズ♀

引用文献

小林正明, 1997, 伊那谷の秋鳴く虫. 伊那谷自然友の会編「伊那谷の自然Ⅱ」, 142-145. 社団法人中部建設協会.

南信濃教育委員会, 1998, 遠山郷に生きる動物たち. 237 p, 南信濃村.

四方圭一郎, 2000, 長野県豊丘村の天竜川河川敷でハマスズを採集. 伊那谷自然史論集, 1, 39.

(しかた けいいちろう/飯田市美術博物館)

伊那谷自然史論集 Natural History Reports of Inadani

投稿者は、下記の「投稿規定」を熟読したうえでご投稿下さい。投稿の際、原稿に必要事項を記入した巻末の投稿整理票を添付して下記までお送り下さい。投稿あるいは執筆に関して不明な点がありましたら、下記編集委員会までお問い合わせ下さい。

投稿先：〒395-0034 飯田市追手町2-655
飯田市美術博物館内 伊那谷自然史論集編集委員会
TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252
e-mail bihaku@iida-museum.org

投稿規定 (2006年3月改定)

募集する原稿の内容

動物・植物・地質・古生物など「伊那谷の自然史」あるいは、「飯田市美術博物館館蔵標本」に関する「論文・報告」と、伊那谷での初観察・生物相の変化などの「観察記録ノート」を掲載する。なお、以下の問題を含むものについては、掲載しない。

- 1) 誤同定など大きな誤りを含んでいるもの
- 2) すでに同様な記録がたくさんあるもの
- 3) 他誌に同じ内容の原稿を二重投稿しているもの
- 4) その他、編集委員会において不適当と見なされたもの

受付および審査

投稿原稿は、編集委員会において投稿規定に合っているか審査を行い、審査に合格したもののみ受け付ける。受け付けた投稿原稿は、編集委員会において査読を行い、内容によっては外部の研究者へ査読を依頼し、その結果を受けて掲載を決定する。

原稿の構成

「論文・報告」および「観察記録ノート」の構成は以下の通りとする。

「論文・報告」：題目、著者名、英文題目、英文著者名、連絡先（郵便番号・住所）、和文要旨、和文キーワード（5つ程度）、英文キーワード（5つ程度）、本文、引用文献、summary。なお英文キーワード、summaryは希望者のみ。スモールキャピタルは使用しない。

「観察記録ノート」：題目、著者名、本文、引用文献、ひらがな著者名および連絡先（郵便番号、住所）。

図・表

原稿とは別に作成し、原則としてA4版1ページ以内に収める。図表ごとに通し番号をつけ、表題と説明文は別紙にまとめる。原稿には、図表の入る位置を明示する。写真は図として扱う。図表番号は「図1」「表1」のように表記する。

記録の仕方

標本数、採集地、採集年月日、採集者、保管場所などを明記する。例えば昆虫の場合、「2♂、飯田市大平峠（標高1300m）、12. IV. 1998、四方圭一郎採集、飯田市美術博物館保管（ICMI-3027）」のようにする。

文献

基本的に引用文献のみを記載し、文末にアルファベット順にまとめる。表記のしかたは、これまでに伊那谷自然史論集に記載された論文にならうこと。

原稿の提出

原稿は24字×45行で2段組とし、原則としてワープロソフトで作成して、打ち出し原稿および割付け原稿（ワープロソフト上もしくは割付け用紙を用いて、正確に割り付けられたもの）各一部を添えて、3.5インチフロッピーディスクやCDなどのメディア（テキストスタイルで保存すること）で提出する。メディアには、著者名、論文名を明記する。割付けのために割付け用紙が必要な場合は、編集委員会に請求すること。

手書き原稿は、原則としては受け付けない。

別刷りほか

執筆者には、論集を1冊謹呈する。また、原稿のうち「論文・報告」については別刷りとして50部謹呈し（連名の場合は筆頭著者に）、それ以上の別刷りについては執筆者負担とする。

校正

著者校正は初校のみとする。校正は誤字脱字等の訂正および、内容に大きな誤りを含む部分だけにとどめ、文章の大幅な変更や図表、写真の変更等は基本的に認めない。

公表

印刷物の他にPDFを作成し、ホームページ等で公開する。

著作権

著作権は飯田市美術博物館に帰属する。ただし、著作者が自己の著作物を他の著作物に利用する場合のみ、申請を必要としない。

伊那谷自然史論集 投稿整理表

年 月 日

和文表題
著者名 (和文)
原稿枚数 本文： 枚, 図： 枚, 表： 枚, 写真： 枚, 仕上がりページ数： 頁
別刷り希望数 50部 (謹呈) + 部 (執筆者負担)
連絡先 (代表者) 氏名 _____ 住所 〒 _____ phone _____ fax _____ e-mail _____

*コピーでもかまいません